

# ひらくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '88 5月号

## \*\*\*\*\* 5月の行事 \*\*\*\*\*

5月

7   土	古文書講読会／土曜観察会
7 ~ 8	天体観察会（七国荘）
1 4   土	石仏を調べる会
2 1   土	古文書講読会／土曜観察会
2 2   日	相模川を歩く会
2 5   水	体験学習“草木染め”
2 8   土	石仏を調べる会

・寄贈品コーナー：新資料収蔵展（6～29日）

・プラネタリウム：銀河はムラをつくる  
(1～29日)

6月

1 ~ 9	館内くん蒸のため休館
1 1   土	石仏を調べる会
1 8   土	古文書講読会／土曜観察会 “自然の新聞作り”
1 9   日	自然観察会“箱根樹木園”
2 5   土	石仏を調べる会
2 6   日	相模川を歩く会

・寄贈品コーナー：新資料収蔵展（歴史部門）  
(11～7/30)

・プラネタリウム：土星の環(11～6/10)

### ●体験学習“草木で染めよう”

日時：5月25日（水）10～15時

場所：博物館科学教室

内容：身近かな植物を使って、ハンカチ、Tシャツなどを染める。

材料費（薬品等）：1人200円

申込み：5月10日までに往復はがきで。希望者多数の時は、抽選で20名。



小学校向けプラネタリウムの学習投影は、  
6月1日（水）より申し込みを受け付けます。



### ●6月自然観察会

日時：6月19日（日）小雨決行

場所：箱根樹木園

内容：樹木園の見学と自然観察

申込み：6月5日までに往復はがきで。申込み多数の場合は抽選で30名。

費用：おとな約3,500円（平塚から往復の交通費および入園料）



### 臨時休館のお知らせ

6月1日(水)～9日(木)まで  
全館の殺虫消毒のため、臨時に  
休館させていただきます。

## 5月の寄贈品コーナー

### 「新資料紹介－自然部門－」

(5月1日～30日)

博物館には毎月多くの資料が収集されています。市民の方から寄贈していただいたもの、学芸員が調査をしながら収集したものなど、それぞれ整理され、収蔵室に保管されています。

毎年、年度はじめの寄贈品コーナーでは、1年間に収集された新しい資料を展示しています。

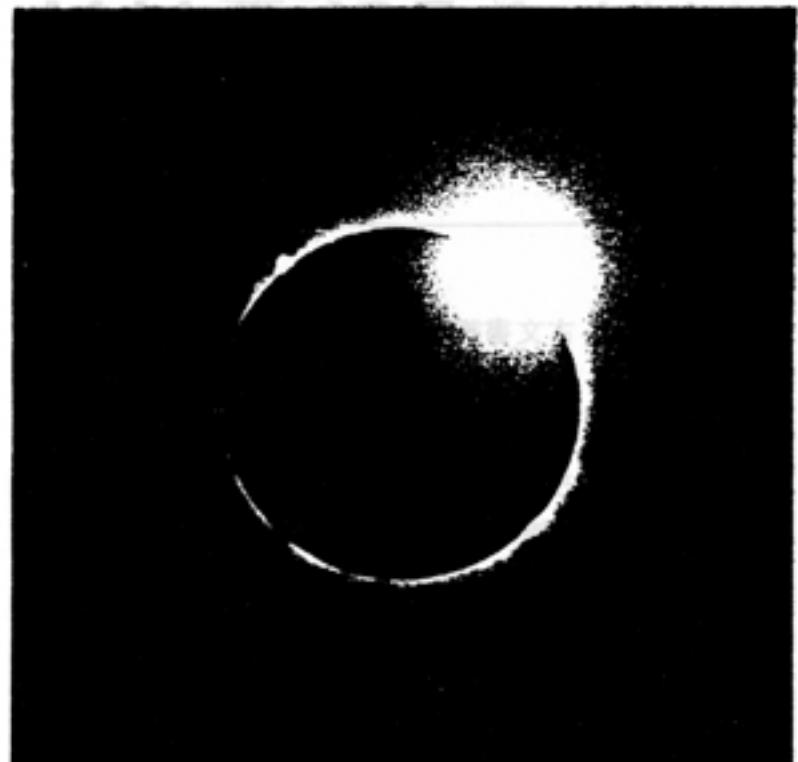
5月は生物と天文の新資料です。その中から、いくつかを御紹介しましょう。

●珍しい竹の花 モウソウチクはめったに花を咲かせません。100年以上たって、はじめて花をつけ、その竹やぶは一斉に枯れてしまうことが知られています。昨年の秋、御殿場市で、約400本の竹やぶの内40本に花がつきました。その花の一部を富士竹類植物園の御好意で手に入れることができました。

●山火事で死んだヤマカガシ 今年の2月に湯河原で大きな山火事があったのを覚えていますか。火事の後、山を見回った県有林の方が、火に追われて樹上で力尽きたヤマカガシの死体を届けてくださいました。人間の不注意が招いた火事が、いかに動物や植物を傷つけたか、その姿は雄弁に語っています。

●日食の写真 昨年の9月に沖縄で金環食、今年の3月に小笠原で皆既日食が見られました。天文の最新情報としてこれらの日食の写真を展示します。

そのほかに、野鳥や植物の生態写真、江戸時代の暦などの天文資料を展示します。(浜口)



ダイヤモンドリング(1988年3月18日)  
丸 美千子さんの撮影・於パレンバン



モウソウチクの花(穂状に咲く)

会津磐梯さんに咲くのは笹の花。  
これは飢饉のときの食糧になった。

いま、プラネタリウムでは……

# 銀河はムラをつくる

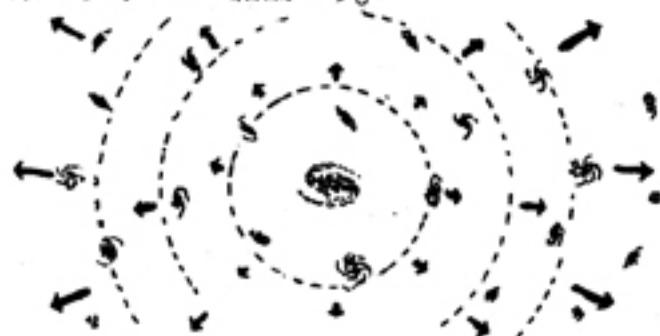
(5月1日～29日)

## ○膨張(ぼうちょう)する宇宙

宇宙は一様に膨張している。

私たちが生きているこの宇宙全体は、四方八方にひろがり続けています。

これは、「遠くにある銀河ほど、より大きな速度で私たちから遠ざかりつつある」という観測結果から導かれた結論です。

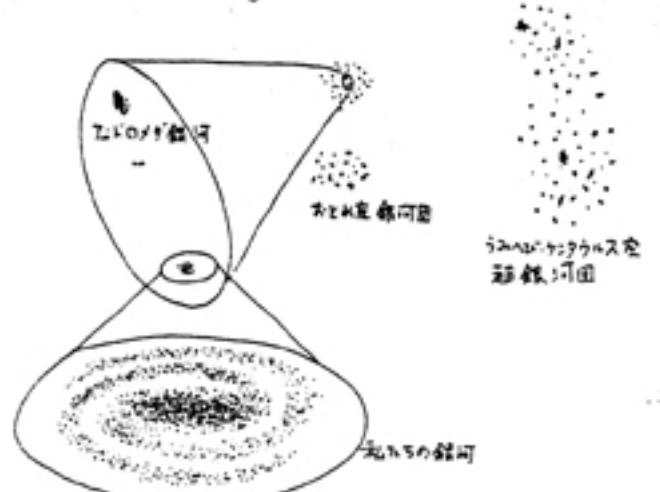


## ○銀河系とそのまわりの銀河

私たちは「銀河系」と呼ぶ星の大集団の中に太陽系の一員として加わっていますが、その銀河系もまた、宇宙の他の銀河の集団の中にいます。

銀河はそれが特別な運動をしているのです。私たちの銀河系もまわりにあるいくつかの銀河とともにグループを作りながらより大きな銀河団に向かって動いていることがわかりました。

全体が一様にふくらんでいるなら、すべての銀河は宇宙のしくみにしたがって互いに整然とした運動をしているはずです。ところが、最近の銀河の観測から、そうでもないらしいことが明らかになってきました。



## ○宇宙を見るマド

春の夜空は天の川が地平線付近を流れているため見えにくく、星もまばらで大きな星座が多いのが特徴です。天の川からはなれるにしたがって星がまばらになるのは、私たちの銀河がひらべったい形をしているからです。銀河の外を見通すには、天の川からはなれた星空が良く、それが春の星空なのです。



## ○宇宙の構造

宇宙にうかぶ銀河の研究は20世紀の初め頃からくわしく行われ、その分布が明らかになってきました。それによると、おおぐま座からかみのけ座をとおっておとめ座まで、北の空に銀河が帯のように広がっていることに気がつきます。

これらの銀河は私たちの銀河の入っている超銀河団であることもわかりました。

銀河は群がって銀河団をつくり、さらに超銀河団をつくっています。それらはまた、互いにつながって宇宙の構造をつくっています。

宇宙の大構造、銀河が集まってつくるそれを調べることは、宇宙がどんなふうに進化してきたかを知る手がかりとなるのです。(原)

# 海と川

2階展示コーナー A28



平塚市漁業協同組合撮影

## 回遊と漂着

海には潮の流れにのってさまざまなものが回遊し、浜辺には多くのものが打ち上げられています。回遊、そして漂着するものは、魚や貝、動物、海藻、さらに海を隔てた異国のものなど、じつにバラエティーに富んでいます。

相模湾には、展示してある衛星写真からわかるように、遠く赤道付近から流れ、日本列島に沿って北上する黒潮の支流が流れこんでいます。

今回はさまざまな回遊・漂着物のなかからカツオとブリを取りあげ、その漁法を紹介します。

かつて相模湾近海には、初夏になるとカツオが群をなして回遊してきました。現在では想像できないようなことですが、10世紀初めころにできた『延喜式』という記録には、相模国の調庸として「短鮰(アワビ)、堅魚(カツオ)」などがあげられています。当時、カツオをどのように捕ったのかは不明ですが、江戸時代には湾岸各地で一本釣で漁獲されていました。

カツオは黒潮にのり、餌となるイワシの群を追いかけて北上します。カツオに追い囲まれたイワシは、一ヵ所にかたまり、海面に群上がりります。すると空を飛ぶカツオドリ(オオミズナギドリ)がそのイワシをめがけて飛来します。一本釣を行

う漁師は、このカツオドリを目印にカツオの群を見つけて釣り上げるわけです。カツオを釣るには、カツオドリを見つける鋭い目が要求されました。江戸時代、江戸の市中で珍重された「初ガツオ」は、こうして捕れた相模湾のカツオのことです。

カツオは初夏から秋口に回遊するのに対し、ブリは冬の回遊漁です。モジャコ、ワカシ、イナダ、ブリと、成長に従って名をかえるブリも、相模湾では多くの漁獲がありました。冬のブリ漁といえば、たいていダイボ網(大謀網)という定置網漁です。網は幾多の改良が加えられていますが、相模湾では今でも小田原などでブリの定置網漁が行われています。

下の図は昭和初期まで使われていた大謀網の略図です。この時代には小田原だけでなく、平塚の須賀でも大謀網が仕掛けられました。その名通り、大がかりな網で操業には100人以上の人が必要でした。それだけ資金もかかったわけですが、ひとたびブリの大群が入れば大きな水揚げになりました。須賀の三島神社などには、大正10年にブリ大謀網の船方が寄進した奉納塔があります。

(小川)

